

夢洲懇談会と行政情報

大阪に移り4年半になるが、私の貴重な「居場所」が夢洲懇談会（「夢懇」、夢洲の都市計画の変更を考える市民懇談会）である。夢洲問題に関心があり、途中から「夢懇」に加わった。一昨日もズームで2時間近く会議があった。昨日レポートしたIRカジノの環境アセスメント、万博協会との協議などを議論した。弁護士事務所に行く予定があり、大阪市役所地下2階のカフェで会議に参加した。なんだか目が疲れた。そこで知り合いのジャーナリストも作業していて、あとから情報交換もできた。

「夢懇」の中心メンバーは、NPO法人AMネット事務局長の武田かおりさんである。会議のあと、すぐに議事録を作成して送ってくれる。仕事の早いことには、いつも感心している。私の拙いレポートなども、本当にわかりやすく、ブログで紹介してくれる。そんな武田さんが市民活動総合情報誌『ウォロ』2022年4・5に、写真「水道民営化に待った！知って・生かす行政情報」を寄稿している。昨日やっと図書館で読んだ。武田さんたちのNPO、AMネットは、経済のグローバリゼーションの影の部分に目を向け、主に「水」「食と農」「地域」の3つの分野で、持続可能な社会作りを目指して政策提言などを行う国際協力NGOだ。



本号特集「情報公開が社会を進化させる」にしぼって、武田さんの主張をすこし紹介しよう。行政資料は宝の山。気になることがあれば、まずは行政の公開資料を見て、「行政の言い分」を見てほしい。

現場を知る市民であれば、「何か」気が付くはずだ。現場を知る私たち市民が気付いた「何か」は、行政も議員もマスコミも知らないことが多い。その「何か」を伝えることで、政策を変えられることがあるのだ。



行政資料の公開は、積極的な自治体ばかりではない。公開情報がなければ、市民は現場の声に基づいたアクション

しか起こせない。客観性を担保するには「情報を出して」という活動からスタートする必要があるのだ。資料があっても、分からない点は担当部局に直接電話して教えてもらうといい。

行政情報を入手し可視化すること。それは組織や国境を越えて志ある市民をつなぎ、社会課題解決や政策実現に向かうための大きな力なのである。

武田さんの「夢懇」の活動を見ていて、自らの主張を実践しているようだ。私も武田さんをはじめ「夢懇」メンバーから学んで、市役所の担当部局に電話し、情報公開請求をするようになった。名古屋時代には考えられない「変身」ぶりだ。昨日、IRカジノ誘致に関する「住民監査請求」を大阪市に行ったが、私もその請求人の一人である。

(2022年5月12日)